

種類

右之條數堅可相守、此外從先規相定數ヶ條、今以不可有相違者也、

慶長二丁酉年三月朔日

元親

〔人倫訓蒙圖彙^五〕嘉留多師 かるたは阿蘭陀人の翫也、一種各十二枚あつて、とつふ、わうる、はう
 いすの四種あつて、合四十八枚なり、又歌がるた、詩がるたあり、歌がるた、寺町通二條の上ひいな
 やにあり、四十八枚は五條通におほし、大坂久太郎町にあり、彩色外に出してもこれをつくる也、
 〔毛吹草^三〕山城 坊門賀留多^カ 鹿相物也 金賀留多 歌賀留多 筑後 三池賀留多

〔雍州府志^七〕賀留多 六條坊門製之、其良者稱三池、以金銀箔飾之者謂箔賀留多、是於繪草子屋
 造之、元阿蘭陀人玩之、長崎港土人效之爲戲、凡賀留多有四種紋、一種各十二枚、通計四十八枚也、一
 種紋謂伊須蠻國稱劔曰伊須波多、此紋形似劔自一數至九、第十畫法師之形、是表僧形者也、第十一
 畫騎馬人、是表士者也、第十二畫踞床之人、是表庶人者也、一種稱波字、蠻國稱青色曰波字、此紋自一
 數至九、數第十第十一第十二同前、一種紋謂古津不、蠻國酒盃謂古津不、是表酒盃者也、一種紋謂於
 宇留、蠻國稱玉謂於宇留、是表玉者也、其玩之法、其始三人或五人圍坐、其内一人左手取持賀留多、以
 裏面上下混雜、不見其畫配分而置各々之前、是謂切賀留多、其爲戲謂打賀留多、然後人々所得之札
 數一二三次、次第拂盡所持之札、是爲勝、是謂讀倭俗每事算之謂讀、又互所讀之札合其紋之同者、其
 紋無相同者爲負、是謂合、言合其紋之義也、或又謂加字、又謂比伊幾、或又謂字牟須牟加留多、其法有
 若干、畢竟博奕之戲也、

〔半日閑話^八〕一うんすんかるた打方

第一 一うん 五枚 布袋 福祿壽 大黒 恵び壽 達磨

第二 一すん 五枚 唐人の黒冠するもの皆すん也

第三 一そした 五枚 異國人のごときもの 二枚不足